高梁市議会だより
2023 2
ご意見はこちらまで■高梁市議会事務局 高梁市松原通2043 ☎0866-21-0277

3月の定例会スケジュール

3/6	月	本会議（議案の上程）
10	金	本会議（一般質問）
13	月	本会議（一般質問）
14	火	本会議（一般質問）
16	木	本会議（議案質疑）
17	金	委員会
20	月	委員会
22	水	委員会
27	月	本会議（採決）

※3月議会への請願・陳情の締め切りは2月28日(火)までです
※日程は変更となる場合があります。正式な日程は決まり次第、ホームページでお知らせいたします。

政治家の寄付は禁止！有権者が求めることも禁止されています！

公職選挙法により、市議会議員が選挙区内でお中元やお歳暮、ご祝儀を出すことは禁止されています。市民から求めることも禁止です。

編集
議会広報公聴特別委員会
委員長 森 和之
副委員長 金尾恭士
委員 石部 誠
委員 石井聡美
委員 森上昌生
委員 伊藤泰樹
委員 新倉 淳
委員 平松久幸

新 高梁人名録

清水比庵（しみず ひあん）氏
(1883～1975)

屏風「正月雀」

「老いては益々壮なるべし」の言葉どおり、老齢を前向きに捉えた生き方と遊び心のある創作活動で「昭和の良寛」と慕われた歌人の清水比庵は、明治16年（1883）岡山県上房郡高梁町（現高梁市弓ノ町）に生まれ、京都帝国大学卒業後、司法官、銀行員を経て昭和5年（1930）から10年間栃木県日光町（現日光市）の町長を務めました。

絵手紙を同僚に頻繁に送ったことから「絵手紙の元祖」とも称されています。町長時代に出した歌集が歌壇の話題となりましたが、歌と書画に本腰を入れたのは56歳を過ぎてからでした。「人間は死に至るまで日々進歩する」と日記に綴り、「晩学のため80歳で勝負しようと考えたが、すでに80代半ばを超えたので、もっと長生きするしかない」と語ったのも比庵らしいエピソードです。

川合玉堂、奥村土牛など日本画の大家からも愛された比庵について今年2月18日から「清水比庵展生誕140年～芸術に遊ぶ～」と題し高梁市歴史美術館（高梁市文化交流館内）で展示公開が行われます。終活年賀状という言葉が使われるような昨今、70歳から年を重ねるごとに一羽の雀を書き足した屏風「正月雀」をはじめとする作品に包まれて、どこまでも前向きだった比庵の生き方と人間味溢れる作品に元気を頂けると思います。

今号の表紙

「一歩前へ」高梁高校

地域事情に配慮しながら、県立高校の再編を検討する方針が県教育委員会より示されました。私立、公立を合わせて高梁市内には5校の高校があります。

今号では高梁高校の協力を得て表紙の撮影を行いました。

備中松山藩政を行っていた御根小屋跡に建ち、小堀遠州作庭の心字池など城下町高梁を感じる校舎と自然豊かな環境で、生徒達は「文武不岐」を目標に将来の夢に向かって一歩前へと挑戦しています。

次号も高梁市内の高校にスポットを当てて議会だよりの表紙に取り上げていきます。

あとがき

生きているということ
いま生きているということ
それはのどがかわくということ
木もれ陽がまぶしいということ
（谷川俊太郎「生きる」抜粋）

今この詩を読み返しています。ちょっとした日常の風景、人の息遣い、そういったものが今なお続いているコロナ禍によって一変しています。

この間一人一人何かしら心の拠り所を持たれてきていたのだろうと思います。

今年もコロナ禍で新年が始まりました。感染に気を付けながら経済活動も必要です。私たち議員は地域の実情をしっかりと把握し、議会に反映しなくてはなりません。今年こそ市民一人一人が心の底から歓びうたうことのできる時間を持ちたいものです。

（金尾恭士）

VEGETABLE OIL INK